

ドイツ語

ドイツ語
Deutsch



ドイツとドイツ語の世界を味わい尽くそう！

どこで話されていることば？

ドイツ語を公用語にしている主な国は、EU最大の経済大国ドイツ、観光立国で音楽の都ウィーンを擁するオーストリア、『アルプスの少女ハイジ』の舞台であるスイス、小さいながら金融大国のリヒテンシュタインです。そのほかに、国民一人当たりのGDPが世界一のルクセンブルクと美食で知られるベルギーでも公用語とされています。デンマークやスウェーデンなどの北欧諸国、チェコ、ポーランド、ハンガリーなどの東欧諸国にもドイツ語を話せる人が多く、ルーマニアにはトランシルヴァニア・ザクセン人、ロシアにはヴォルガ・ドイツ人が住んでいます。フランスのアルザス・ロレーヌ地方、イタリアの南チロルでもドイツ語が話されています。また米国にはドイツ語を話すアーミッシュがいます。

スペインやイタリアなどの南欧諸国やスロバキアやスロベニアなどの東欧諸国では、最近ドイツ語学習熱が急激に高まってきています。3言語があたり前のEU労働市場ではドイツ語が少しでもできると就職にとっても有利だからです。→ドイツ語はEU圏内で第一言語としての話者数が最も多く、学習言語としても多くの人に学ばれ、広く話されている言語です。

日本語とはどんな関係・英語とはどんな関係？

日本語になったドイツ語を紹介しましょう。大学生になったら使いますよ。

アルバイト ← Arbeit (あるばいと)
ゼミナール ← Seminar (ぜみなーる)
テーマ ← Thema (てーま)

ドイツ語と英語を比較してみましょう。

日本語	ドイツ語	英語
音楽	Musik	music
文化	Kultur	culture
文明	Zivilisation	civilization
(語順)	ドイツ語	英語
	Ich liebe Musik	I love music!

音と文字

おはよう！	Guten Morgen! (グーテン・モルゲン)	Good morning!
こんにちは！	Guten Tag! (グーテン・ターク)	Good day!
おやすみ！	Gute Nacht! (グーテ・ナハト)	Good night!
ありがとう！	Danke! (ダンケ！)	Thank you!

ドイツ語では、名詞はいつも大文字で書き始めます。

インド・ヨーロッパ語族の中で、ヨーロッパで話されていることばは、

- ①ゲルマン語 →ドイツ語、英語、オランダ語など
- ②ラテン語 →スペイン語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語など
- ③スラブ語 →ロシア語、チェコ語、スロバキア語などです。

→単語も文章構造も、英語に一番近い言語がドイツ語ということになります。

最近のトピック

1) ワークライフバランス、1日を2回楽しむ。

『5時に帰るドイツ人、5時から頑張る日本人』これは近年執筆された熊谷徹氏の本のタイトルです。「働き方改革」が議論されている中、ドイツでは早めに仕事を済ませ、5時には帰路につき、夏ならそのまま野外（水泳や日光浴、サッカー等）に出かけ、冬なら音楽会や演劇など屋内のイベントに出かけます。会社組織から自分を切り離し、家族や趣味を大事にするドイツ人。彼らは1日を2回楽しんでいるようです。

（下の写真は大会ミュンヘン市の真ん中にある公園です。ここで人々はサーフィンを楽しみ、子供達を遊ばせています）



2) ワークライフバランス、1年に2回は長期休暇をとる。

長期休暇を取らない部下がいると、上司は罰せられます。残業をしている部下がいると上司は減給されます。新生児をもつ父親には2ヶ月の育児休暇があり、母親には産前産後2年間の休暇が認められます。

こういう制度が出来上がれば「karoshi」という世界共通語は、死語になるとと思いませんか。

3) 実はグルメなドイツ人。

ドイツ人がグルメであるということは以外に知られていません。「朝は皇帝のように、昼は王様のように、夜は??のように」このフレーズはドイツ人の食生活を表現していました。1日の始まりは皇帝のように豪華な食事をとり、昼は午後に備えたつぷりと栄養をとる。そして夜はつつましく食べる。もっとも忙しい現代では王様のようにゆっくりと昼食をとることは難しいので、簡単なランチで済ませる人が増えていますが。

（最初がもり沢山の朝食、次が豚の名物料理1人前、最後はドイツの定番ジャガイモ・クネーデル）



4) ビールは最強の栄養ドリンク、アイスコーヒーは？。

日本では透明の上面発酵ビールが一般的ですが、ドイツでは濁った発酵途中の生ビールもよく飲まれます。ドイツ人に言わせると、「ビールはお酒ではなく、主食」。その心はビールもパンも麦を原料にしているから。「ビールスープ」「ビールハム」「ビール肉」などあらゆる料理にビールを使い、朝からしっかり「液体パン」を取り込む人も多いようです。でも「ビアガーデン」に行くときは、家族で出かけます。食べ物、つまみ類は自分で用意し、飲み物だけを注文できるシステム。おなじ形式の「ワインガーデン」が南ドイツ、オーストリアにあります。安くて美味しいビールやワインをたっぷり味わえるお店。日本にもできないものでしょうか。

(左は子供の遊園地もついているビール屋さん。アイスコーヒーとは、アイスクリームとコーヒー)



5) ものづくり大国の Arena 2036。

「第4次産業革命」の真只中にあるドイツは「Arena 2036」という官民融合型のプロジェクトを立ち上げ、21世紀の社会の見取り図を大胆に提案しています。ガソリン車から電気自動車への転換という一つの部門における単独の変革ではなく、今の社会の仕組み全体を視野に入れながら、バラバラだった世界を新たにつなげていき、住む人々にとって安全でかつ優しい世界を構築するという壮大なプランの始まりです。

(次の写真はこの計画の強力なパートナー、ベンツの博物館。誰でも見学できますが、中大の留学プログラムのメインです)



6) サステナビリティ、自分の木を切る現代人。

地球温暖化は今、人類が直面する最大の問題の一つ。でも私たちがお店で受け取るレジ袋も実はとても深刻な問題を引き起こしています。この現代人の矛盾に満ちた姿をドイツ語では「自分の座っている枝を、自分で切り落とす」（「墓穴を掘る」に似ていますね）と表現します。ドイツでは若者たちがマイバックを持参し、有料のレジ袋を拒否しています。身の回りの小さな行動が、やがて大きな変化へつながる一つの例ですね。



X (旧 Twitter) と Facebook で「中央大学商学部ドイツ語」として情報を発信しています。ぜひ覗いてみてください！

ドイツの最新の情報についてはドイツ外務省による冊子『ドイツの現状』（2023）をぜひご覧ください（PDFで閲覧できます <https://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/en/germany-book-edition-2023>）。

最後にドイツ語を学びながらブンデスリーガに挑戦した学生の写真を掲載します。マネジメントなどをドイツで学ぶ学生も増えています。建設予定のデュッセルドルフのクラブハウス「欧州版夢フィールド」やそのクラブを支える様々なネットワークには、21世紀の社会を先取りした可能性が一杯です。

